



取締役副社長

後呂光義

「情報化白書 2004」を興味深く読んだ。ブロードバンド、ユビキタス環境など多様な技術革新が社会へ浸透している現在は、ITの第三ステージといわれるが、考えてみると自分自身38年もの長い間色々な立場でITに携わりITによるビジネスや社会生活のイノベーションの有様を直接感じる機会を得た事に改めて喜びと誇りを感じる。

「情報化白書」が言う様にITインフラ整備の段階からIT利活用の強化に重点が移り我国の社会・経済はIT化によってさらに大きく変化していく事は間違いない。携帯電話、自動車に加えネット家電がIPv6でネットワーク化されるようになるとビジネスの仕組み也大変革が起きる。その中で今後のIT利活用の進展に影響する事のうち特に関心を持ち主体的に取り組んでいくべき事として次の2つに注目している。

一つはITガバナンスとROIT、もう一つはセキュリティーとプライバシー保護。

「情報化白書」によると、上場企業420数社の内、企業組織全体最適化を実現している企業と単一企業を越えて共同体最適化を実現している企業は併せて20%弱しかない。ITを活用したイノベーションにより競争優位性を高める戦略的IT活用と既存事業の収益性を確保する為の柔軟なIT基盤作りのバランスをとるといった経営戦略とIT投資戦略のベクトルを一致させるITガバナンスの重要性が高まっているし、戦略との整合性や効果を実現する上でROIT (Return On IT) の評価基準や具体的な手法を明確にする事が急がれる、ユビキタスバブルをおこさない為にも。

その一方でITの効果的な利活用を進める上でどうしても乗り越えなければならない課題がセキュリティーとプライバシー保護の問題である。来年4月の個人情報保護法の完全実施に向けた対応が緊々の課題であるが、重要三分野の一つである情報通信事業者として責任ある対応を図ると共に、企業活動やIT化の阻害要因にならない様にユーザサイドに立った取組やサービスの提供を進めて行く事が重要である。

ビジネスや社会生活の利便性や効率性を向上させITが上手に利活用される為は何よりも大切な事は、ITに携わる我々一人一人がその役割と使命をよく認識しITの本質と利活用に対する明確で幅広い視野をもって取組む事である。